

今回のようなパンデミックを、企業が抱える現実的なリスクのひとつとして認識し、リスク対処のための策を講じていた企業は何社くらい存在していたのだろうか。少なくとも、ここ数十年で発生したSARS、エボラ出血熱などの感染症は、局所的な封じ込めに成功してきたわけだし、企業にとってみれば、多様なリスクがあるなかで、感染症が自社の経営に重大な影響を及ぼす可能性があるという具体的なイメージするのは、相当難しかったのではないかと推察される。

だが、パンデミックは現実には発生し、今日の医学をもってしても、ワクチン開発には数カ月以上を要するといわれ、今の様態はしばらく継続する。もはや、グローバルな感染症と事業経営は無縁ではなく、共存を前提に今後を考える必要が生じており、感染症で露呈したリスク、課題などを整理し、この機会を企業が強化するための学びのステージとしてとらえるべきではないだろうか。打ち負かされることなく、リスクに真摯に向き合い、現実的な対策を取り、実践していく。こうしたシンプルでタフな姿勢こそが、企業のサステナビリティの源泉である。

今月号では、リスクコントロールのプロフェッショナルに発信していただいた。さまざまな着眼点や具体策が掲載されており、今後を考えるうえで参考にしていただければ幸いである。また、JOIは、リスクコントロールのためのセミナーやオーダーメイド型の企業向け研修のメニューを有しているので、ぜひこちらもご活用いただきたい。

総務部長 田丸伸介

海外投融資

Vol.29 No.4 (通巻172号)
2020年7月22日発行

発行
一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人
日塔 貴昭
〒102-0073
東京都千代田区九段北二丁目
3番6号 九段北二丁目ビル
TEL. 03-5210-3311 (代)
URL. www.joi.or.jp

制作協力
(株)エディポック

*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



九段だより

バーのある人生 (7)

私はバー人生に如何に踏み入ってしまったのか?

このコラム、私が最も行きつけにしているバーに触れることを避けてきた。それはこの文章の趣旨が店紹介ではないからでもあるが、それ以上にそのバーが私自身にあまりに強い影響を与えていて客観的に書けないからである。しかし私の「バーのある人生」を記すのに、このまま何も書かないで終わるわけにはいかない。

そのバーは、東京の西、国立にあるHEATHという。

20代の頃、私の興味はスコッチウイスキーそのものがあった。スコットランドの蒸留所巡りをしたり、勤め帰りに吉祥寺のバーで目に付いたシングルモルトを片っ端から飲み比べしたり(当時は安かったなあ……)。そんななか、中央線沿線でスコッチウイスキーの名店として知られていたHEATHの扉を開けるのは自然の成り行きだった。

店に入るとバックバーにはあらゆる銘柄のウイスキーがびっしり。しかしそれ以上に圧倒されたのは、地下なのに天井が高く、イギリスの町酒場を再現したような風情、そしてマスターの洗練された身のこなし、私のような初見者を含めすべてを包み込む「バーの世界観」だった。

HEATHは2002年に銀座にも店を出した。おかげで私の「拠点」も銀座になった。ここも地下のイギリス的な空間で、カウンターの下から天井いっぱい樹木が活けられていた。マスターが真顔で「この木は銀座の地下から生えているのですよ」と言うと、本気で信じてしまう客もいた。マスターや同席の客からいろんなバーの話聞くことも多

く、このころからHEATHを出発点にはほかの銀座のバー、さらには東京各所、日本各地のバーにも出入りするようになっていった。私の関心もウイスキーだけでなくカクテルの面白さ、バー空間の多様さ、バーテンダーの人柄に広がっていった。

行きつけのバーは増えていったがHEATHに行く頻度は減ることはなかった。ここではいろんなことが起きる。時に個を閉ざした沈黙が流れ、時に居合わせた客全員で乾杯なんてこともある。節度と自由、ケトハレ、この酒場を支配する空気は変幻自在に変わり、いつも新鮮な発見がある。私自身、如何なることも「バランスをどう取り、どう崩すか」が大事という価値観が染み付いたのもHEATHの影響が大である。また「この世に真に不味い酒は一滴も無い」という信念も、マスターのすべての酒を平等に扱う態度から教えてもらったような気がする。

HEATHは、現在は銀座の店は休止し、国立のみで営業している。私にとって「バーのある人生」の原点であり、今も世界の中心である。

専務理事 日塔 貴昭

